

令和2年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評

【総 評】

大阪府温暖化の防止等に関する条例ならびに大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物のうち、本賞に応募のあったものについて、環境配慮を目的とした建築的計画・工夫における独創性・先進性、調和性・統合性、取組姿勢・効果などについて総合的に審査し、各種の賞に相応しい建築物を選考した。

環境配慮とは、敷地内の外構計画も含めて、建築的工夫と設備的工夫の統合により、エネルギーの使用を抑制し、快適で健康的な室内環境と、都市環境や地球環境への負荷削減を両立させることを意味し、CASBEEのBEE値はその結果として現れてくるものと言えよう。

長期的には、大阪府市における新築建築物のCASBEEの高評価グレード（SやA）の件数が減少しているが、府市ともに候補物件のレベルはいずれも高く、多くの優れた環境建築物を表彰することができた。

建物の用途区分では、事務所が3件、集合住宅が2件、集会所が2件、ホテル、工場、学校がそれぞれ1件受賞したが、惜しくも受賞を逃した建築物も、それぞれに優れた取組みがなされており、環境配慮の積極的取組みに敬意を表す。

各建築物の具体的な取組みや工夫についてはそれぞれの賞の講評に譲るが、今年は大規模大学キャンパスから小規模な事務所建築まで、大小様々な規模の建築物が対象となり、建物規模にかかわらず、それぞれに様々な工夫と取組みが見られ、環境建築の幅の広がりが感じられた。また、知事賞の東大阪市文化創造館をはじめとして、公共建築に意欲的な環境建築が見られたことは、今後の公共建築のあり方を示唆していると言える。

今後も、環境性能が高く、良質で人と環境にやさしい建築物がより多く生まれることを切に願うものである。

【大阪府知事賞】

東大阪市文化創造館（東大阪市）

市民による文化芸術活動や交流が街に溢れることをコンセプトに、大小2つのホールと市民の創造活動支援室20室を持つ公共文化センターである。広大なエントランス緑地と巨大なカンチレバーによる栈敷ピロティー、街並みを考慮して分節化された打ち放しのRC壁など、印象的な外観を持つホール建築であり、BEE値4.6という高い環境性能を有している。環境配慮事項として、床吹き出し空調やBEMS、自然採光や太陽光発電、Low-E複層ガラスや地域産業をイメージさせるメッシュスクリーンによる簡易エアフローウィンドウなど、様々な省エネ技術を網羅的に採用した高度な省エネルギー建築であり、公共建築として不可欠なBCPも確保している。以上の通り、本建築は大阪府知事賞に相応しい建築であり、東大阪の地にこの魅力あるホール建築が生まれ、市民と共に歩み始めたことは、極めて貴重なことと言える。

【大阪市長賞】

株式会社ヒラカワ本社（大阪北区）

延べ面積が2,000㎡弱の小規模な事務所ではあるが、屋根や外壁の高断熱化、潜熱回収型温水機、デシカント空調、自然風による自然換気など、いくつもの環境配慮の取組みが導入されており、その多くが比較的汎用性の高い技術で、それらをうまく組み合わせることにより環境共生を実現している点は、同規模の建築物の規範となり得る。

また、運用においても、屋外の温度・湿度・風速を測定して自然換気を推奨するランプをBEMS画面に表示し、省エネ行動を呼びかける取組みなどにより、エネルギー使用実績が省エネ基準値の52%減となっており、ZEB-Ready相当の省エネ性能であることは高く評価できる。

淀川付近に立地することから川の氾濫を想定した階高や、停電時にGHPから館内の一部に電力を供給できるようにするなど、積極的なBCPも取組み姿勢として評価でき、総合的な観点から大阪市長賞に相応しいと判断した。

【住宅部門賞】
(50音順)

グランドメゾン上町台ザ・タワー（大阪中央区）

発電効率の高い家庭用燃料電池を全戸に設置し、エネルギーの利用効率の高い集合住宅となっている。また、地下に設置した配管に取り込んだ外気を通すクールヒートチューブにより1階共用部の冷暖房空調負荷を低減するなど、省エネが図られている。

屋外は自生種・在来種を中心とした植栽による緑豊かな外構としており、周辺の公園などの緑とのつながりを意識し、生態系ネットワークの一部となるように計画されている点も評価できる。

東大阪市営上小阪東住宅（東大阪市）

緑化率を30%とした敷地・緑化計画による温熱環境の向上、全体の階高の削減、北側階数の削減など、周辺のまちなみに配慮された市街地の高層公共住宅である。低層住宅が取り囲むなかで、その巨大さは否めないものの、地域に開かれた様々な公園とセットバックにより、周辺コミュニティに貢献しており、地域に受け入れられる高層住宅と考えられる。省エネルギー4等級、エコマテリアルの採用、設備系の維持管理・更新への配慮、ヒートアイランド対策など、長寿命化や環境負荷削減に配慮した優れた集合住宅と言える。

【事務所部門賞】
(50音順)

SINKO AIR DESIGN STUDIO (寝屋川市)

VCS (独自技術) を活用したハイレベルな快適性と知的生産性実現のためのパーソナル空調を備え、潜頭分離アンダーフロア空調、中温冷水を利用した熱源システムなど、先進的な空調設備を備えている。加えて、自然換気・高断熱外皮などのパッシブ技術も導入し、BEMSによる見える化で、ショールームとオフィスの2用途をバランスさせている。小規模ながら意欲的な事務所建築といえ、働き手のための空間造りも高く評価できる。

ベカサスミシン製造株式会社新本社 (大阪市福島区)

特徴的な外装デザインである曲線型のルーバーは縫製の一種「環縫い」の網目の形となっており、ミシンメーカーの本社ビルであることを表現するとともに、建物の外観を柔らかく威圧感のないものにし、さらに、日射や外部からの視線を遮るなどの機能を持っている。

また、社員のコミュニケーションスペースを設けた吹き抜け空間には自然採光や自然通風を行うなど、各種のパッシブ技術も取り入れられている。

企業アイデンティティの可視化とデザイン性、機能性を上手くバランスさせた工夫は素晴らしい。

【商業施設
その他部門賞】
(50音順)

日本経済新聞社大阪別館 (大阪市城東区)

敷地が住宅に隣接しているため、新聞の印刷所という特性上、周辺への騒音対策として、敷地境界線からセットバックした建物配置や、輪転機室や大型車両の駐車場を近隣住宅から離れた建築計画、輪転機下の防振基礎構造などを行っており、評価できる。

また、輪転機は熱やミストが発生する機械であり、天井高の高い大空間に設置されているため、それを効率的に冷却・換気できる空調システムを導入するなど、創意工夫がなされている。

ホテルロイヤルクラシック大阪 (大阪市中央区)

難波の御堂筋沿いにあった旧大阪新歌舞伎座の跡地に建設されたホテルであり、低層部の外観は、村野藤吾の設計による連続唐破風屋根などの歴史的ファサードを模しており、街並みの記憶継承の取組として評価できる。

客室内の照明や空調はタブレットでの操作とし、宿泊客の不在時には中央管理による軽めの室温制御とするなど、最先端の設備により省エネが図られている。

また、地下鉄の駅と地下で接続し、御堂筋の歩道にあった出入り口を無くして歩行空間が広がったことも、周辺環境への配慮と言える。

松原市民松原図書館「読書の森」(松原市)

松原の地域性を色濃くうつす古墳をイメージさせる外観を持ち、ため池のなかに生まれた本図書館は、湿気を嫌う紙・メディア類を扱う図書館を水中建築にするという、公共図書館として極めて意欲的で挑戦的な取組みである。断熱材を使わず、マッシブなコンクリート壁体による断熱と熱容量を確保し、躯体を用いた放射空調と自然換気を組み合わせ、工期やコストの削減を実現し、立体的に様々な機能が複合された大空間のなかに、快適な環境を生み出している。池の水面に反射する光が天井で揺らめいた静かな読書空間は、市民の憩いと知育の場として長く愛されることであろう。

立命館大学大阪いばらきキャンパス (茨木市)

公園との境のない社会と地域に開かれた大学キャンパスであり、人を育てる教育施設として様々な環境配慮技術を積極的かつ挑戦的に取り入れている。例えば、知のプリズム、知のハニカム、杜のユラギと名付けられた機能分化されたファサードをはじめとした数多くの環境配慮技術を採用した上で、キャンパスをまるごと環境配慮型に取り込んだ運用システムを構築し、省エネと教育、地域連携を図るとともに、防災のまちづくりにも貢献する先進的の大学キャンパスである。

令和2年度大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会 及び
令和2年度大阪市建築物環境配慮推進委員会 委員名簿 (50音順)

○印は、大阪府委員 (座長: 山中委員)

- 阿部 昌樹・大阪市立大学大学院法学研究科 教授
- 永村 一雄・大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授
- 木多 彩子・摂南大学理工学部建築学科 教授
- 鍋島美奈子・大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 (環境創生領域) 教授
- 山中 俊夫・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 (建築工学部門) 教授 (委員長)